

# 琉球大学学術リポジトリ

## 産卵鶏管理十二章

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松田, 祐一, Matsuda, Yuichi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/21067">http://hdl.handle.net/20.500.12000/21067</a>

# 産卵鶏管理 十一章

アメリカの農務省、農業大学、試験場等の試験研究の結果から、産卵鶏管理について重要な事項を十二ヶ条挙げ之について簡単な説明のついた冊子が発行されているが、我が国産卵鶏の養殖家にも御参考になればと思つて、産卵鶏管理十二章と題し御紹介する次第です。

## 一、鶏舎の大きさ

鶏舎の大きさは、平飼ひの場合、白色レグホーン種で、一〇羽に対し最小限七坪を必要とし、ブリアスロック種やニューハムプシャー種のような体の大きな品種ならば十坪を必要とする。即ち百羽飼ふ場合は、鶏舎一坪に付白色レグホーン種は一四羽位、兼用種は一〇羽位の割合で飼養出来るわけであるが、もし一〇羽位しか鶏を飼はないと云ふ場合は一坪当の収容羽数は白色レグホーン種でも一〇羽位が適當である。

## 二、餌箱の長さ

餌箱の長さは、一羽当、最小限五寸を必要とする。従つて一〇羽の鶏が居る場合は、餌箱の長さは少くとも五尺を必要とする。然し餌箱の両側から飼料が食へるならば五尺の半分即ち一尺五寸あれば間に合ふことになる。

養鶏管理の中、飼料の給与法は最も重要な事項の一つである。一群中の鶏には、強いものや弱いものがまじつていて、弱いものは、たえず強いものからいじめられ勝つて、餌を食ふ時には特にそうであるから、餌は弱いものでも、いつしよに食へるやうに餌箱を広い目に用意しておくことが望ましい。餌箱が狭まると弱いのものは、強いものから、のけものにされ、充分餌を食ふことが出来ないから産卵も減ることになる。

箱の適當の長さに絶えず注意が肝要である。

## 三、餌箱の型

餌箱の型には、色々あるが、餌が食ひ易く、こぼさないようなものならば、どんな型でもよい。

## 四、餌箱と給水器の距離

餌箱と給水器の距離は、十五尺以内がよい。余り遠く離れ過ぎているのは、よくない。

## 五、水

鶏の飲む水の量は自方にすれば、食ふ餌の二倍である、即ち白色レグホーン種の成鶏は一年間に、一羽で六〇斤以上の餌を食ふから、飲む水は二〇斤以上即ち四斗以上と云ふことになる。

そして鶏の体の約六〇%は水であり、卵の六六%は水である。鶏に限らず総ての家畜は水なくしては生活出来ないものであるが、しばしば水を与へることを忘れ勝ちである。大動物は一日二、三回水を飲むに過ぎないが、鶏は少量づつ何回でも飲むから、鶏舎内には、いつも新しい、きれいな水が用意されていなければいけない。そして少くも一日二回は水を取換へる必要がある。

## 六、とまり木の長さ

鶏が、とまり木に止まる場合、一羽当何寸の長さを必要とするかは、鶏の大きさと、気候によつて異なるが、最少限度一羽五寸を必要とし、暖い夏や暑い時期では、一羽当七寸五分以上が望ましい。

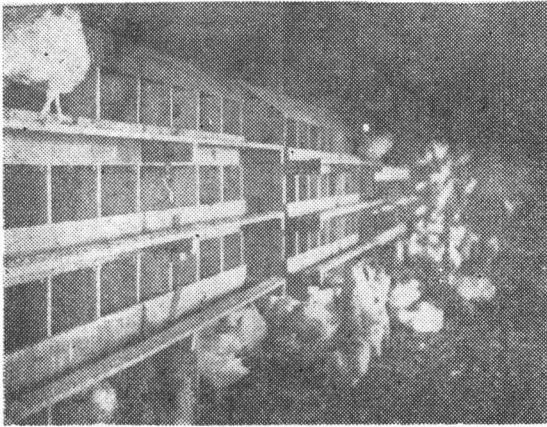
## 七、産卵箱

卵を産む箱は産卵鶏四羽に付一個の割合で準備します。産卵箱の大きさは、間口二尺、奥行二尺二寸、高さ一尺を二個分とします。

連続産卵箱間ち産卵箱の区切りのないものは、一〇〇羽に付由二尺、長さ六尺の産卵箱二つで間に合ひます。

## 八、点燈

種卵採取の場合でも、食餌採取の場合でも、一日の明るい時間が一三―一四時間になるように、電燈をつけることが望ましい。即ち秋冷と共に明るい時間が十二時間位になり、夏の十四、五時間位に比べると三、―四時間、陽がまつたことになるから、二―三時間電燈をつけて、明るい時間の合計を十三、四時間にするのである。点燈の時間は朝方がよい。光度は五―六坪の室に六〇ワットの電燈を床から七尺の高さに吊して



産卵箱

おく程度でよい。

## 九、敷 藁

敷藁は掃わら、妻わら等を切つて用い、三寸位の厚さに敷き、時々わらを、少しづつ補給してやる、アメリカでは六ヶ月位、わらが使へるようですが、沖繩は湿気が多いから一、二ヶ月に一回、敷わらの取換へが必要と思われ。

## 一〇、しりつゝきの手防

しりつゝきを予防するには、鶏の上くちばしを切るとよい、(註)成鶏ならば、上くちばしを先の方から一分位切つて終ふふ、くちばしを切ると血が出るから止血するには、小さい鉄棒のようなものを、炭火で真赤になるまで焼いておいて、くちばしを、鉄か、小刀で切ると同時に、赤く焼けた棒を切口にくっ

つけてやるとよい。( )

アメリカでは、電気を利用して、くちばしの切断と止血を同時にやるようになった器具がある。鶏を鶏舎に移すときに、やつておくと都合がよい。

くちばしを切つた後は、餌箱に餌を多く入れてやらないと、餌が真ひにくいから注意すること。

## 一一、種卵採取の場合の雄の割合

種卵を採る場合、一羽の雄が何羽の雌に交配出来るかと云ふことは、雄の個体によつて差があるが

(イ) 白色レグホーン種、雌一四一六羽に対し雄一羽の割合  
(ロ) 兼用種、雌二一四羽に対し雄一羽の割合

右は、雄一羽に対す雌の最大限の羽数である。

## 一二、鶏の淘汰と更新

数多い産卵鶏の中には、卵を産まない鶏も居るから、食つた餌代さへ稼ぐことの出来ない鶏や、飼つていても余り得にならない鶏は、直ちに淘汰してゆくとよい。

外貌から見ても、冠がしなびて、小さくなつたもの、くちばしの色が黄色いもの、肛門の処にある恥骨と尻骨の間が指二本の間もないもの等は、産卵していない証拠である。早春にふ化した鶏や、前年にふ化した鶏は、秋になると換羽するのが普通であるが、六月、七月頃に早くも換羽を初める鶏は、寡産鶏であるから、淘汰した方がよい。

又鶏は産卵後一ケ年間が、産卵数多く、二年以後は産卵が減るから、採卵養鶏の場合は、羽数の七割以上は産卵後一年未満の鶏を飼養する方が、利益が多いと云われている。

(松 田 祐 一)

# 台所の改善についで

(No. 1)

私達の眷しに、なくてはならない台所の重要と、品具の配列については、四月号で述べました。今月は、その他のいろいろな角度から皆さんと一緒に考えてゆきたいと思ひます。

先づ作業の労力と時間の消費を少くし、作業能率を高めるためには、作業する人の体位、姿勢、作業の順序、動線等を考慮しなければなりません。流し、調理台、コンロ台、食器、戸棚等を合理的に配置し、その高さ、奥行、構造等を工夫したもので、台所の改善を試みたいと思ひます。

台所の設備の基礎となるものは「水」と、「燃料」であり、その形も、「流し」、「収納戸棚」、「熱源」の三つの器具と、それに所属する一群の器具とで決まります。その扱い具台

のよし悪しも、その道具の配置に關係の深いことに気がかれることでありましょう。

台所はどこのご家庭にもあつて、見なれずして、平常は、それ程注意しないものです。それでいろいろな不使も、ついあきらめの生活になりがちで、誤つた解釈をしていても平気なものです。

そこで、台所の設備も用具も、考えられたものでありたい。即ち、「考えてから働き、考えつつ働き、更に働いた後に、考えるところよくなることでしょう」。併し、台所の設備、用具がどんなに考えられたものであつても、其処で働く人が考えない、へあつたに、設備も用具も、猫に小判の坪に

つてしまつてです。

労力の問題は働く人が常に動線を短縮しようとする努力で、解決されます。物の整理が如何に管理されているかについて例えは、決められた置場に物を、置かないで溜しまわつてゐることとは、徒勞と時間の浪費であります。そのようなことはよく心得ていても、実行はなかなかむづかしいものです。又、不要なもの、直ちに洗つて、規定の場所に整理し、使つた後は、次の活用を念頭に置かなければ、よい仕事、能率的な仕事は望めないでしょう。不整頓、不清潔な働き方は思ひがけない損傷や、災害を招きがちです。従つて、整理、秩序、清潔の三つはどうしても切離して、考えてはいけません。

それでは先づ台所の「流し」について、考えて見ましょう。主婦が、流しに立つて働く時間は、台所の仕事で一番長いものです。それ故、流しが便利に作られているか、否かは家事労働全体に大きく、影響を及ぼします。